



第13回JUAAビジネス・スクール ワークショップ

1) 概要

開催日時 : 2021 (令和3) 年9月27日 (月) 13:30~16:00

会場 : Zoom ウェビナー

参加者数 : 57名

テーマ : 「いま、企業がMBAに求めること」

登壇者 : 藤村 博之教授 (法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、
大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会委員長)

辻 庸介氏 (株式会社マネーフォワード 代表取締役社長CEO)

水沼 啓幸氏 (株式会社サクシード 代表取締役社長)

若山 泰親氏 (ブレイクポイント株式会社 代表取締役社長)

藤森 義明氏 (CVCアジア・パシフィックジャパン株式会社、
大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会委員)

※第13回JUAAビジネス・スクール ワークショップの資料は、お申込者のみに提供しています。

本報告書内の画像を使用・転載することは禁止いたします。

2) 内容

<開会挨拶>

土居 希久(大学基準協会 評価事業部部長)

本協会の土居希久より、本協会が実施している経営系専門職大学院認証評価の概要及びビジネス・スクールワークショップの開催経緯が説明され、グローバル化する社会のなかで、ビジネススクールの在るべき姿を意見交換する場としてこの機会を活用したい旨挨拶がありました。

これからのビジネス・スクール

理論と実務の架橋教育による
高度専門職業人養成へのニーズの高まり

新規ビジネスの創造と
ビジネス・スクールの進化・発展

JUAA:事務局 土居 希久

7

Japan University Accreditation Association

<登壇者からの発表>

国内または海外のMBAを修了した各登壇者からは、それぞれの企業内容について説明
いただくとともに、以下の2つの観点から発表をいただきました。

- ・ 現在、企業人の立場になってMBA教育に求めること
- ・ 昨今の環境変化の中でMBA教育に求めること

辻 庸介 氏(株式会社マネーフォワード 代表取締役社長 CEO)



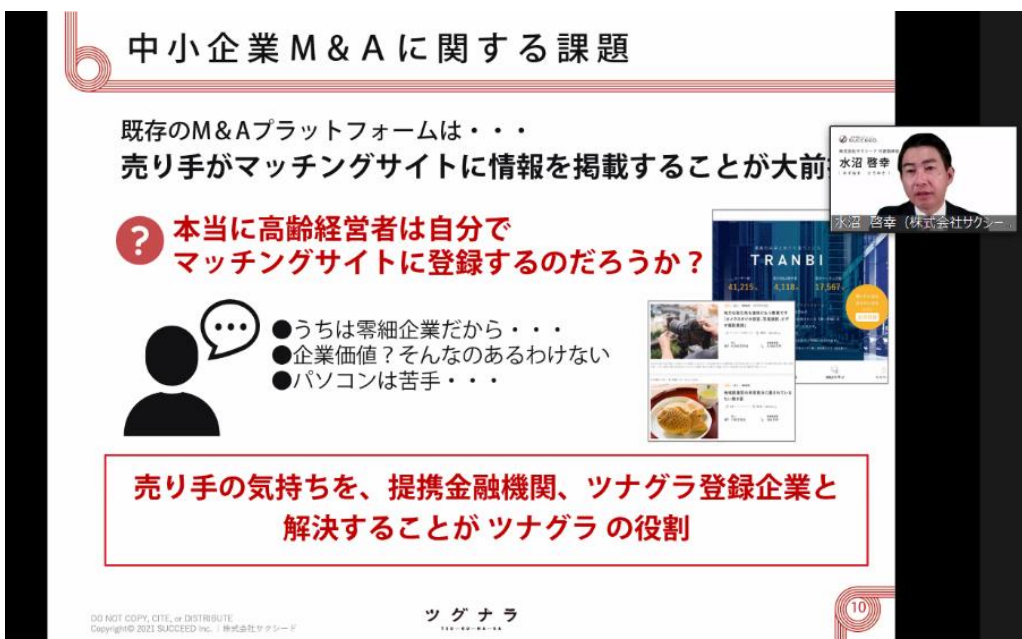
解決したい社会課題 (企業)

- 少子高齢化による労働人口の減少
- 低い労働生産性
- 成長資金の不足
- 低い起業率

コロナ禍で重要性が高まった課題

- リモートワーク下での円滑な事業経営と従業員の安全の確保
- 資金繰りの改善

水沼 啓幸 氏(株式会社サクシード 代表取締役)



中小企業 M & A に関する課題

既存のM&Aプラットフォームは・・・
売り手がマッチングサイトに情報を掲載することが大前提

本当に高齢経営者は自分でマッチングサイトに登録するのだろうか？

- うちの零細企業だから・・・
- 企業価値？そんなのあるわけない
- パソコンは苦手・・・

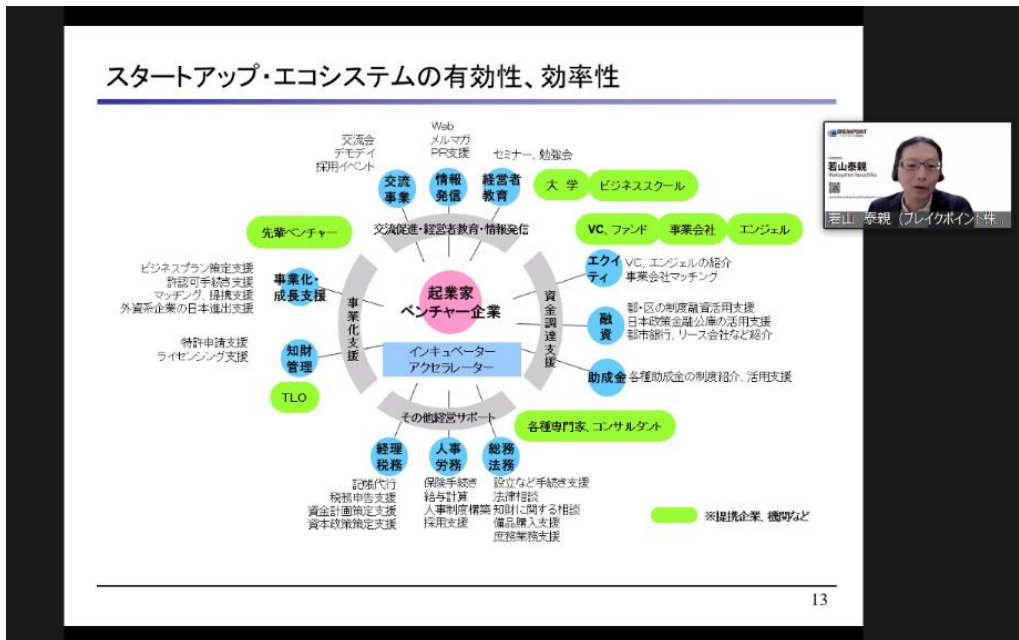
売り手の気持ちをも、提携金融機関、ツナグラ登録企業と解決することがツナグラの役割

DO NOT COPY, CITE, or DISTRIBUTE
Copyright © 2021 SUCCEED Inc. | 株式会社サクシード

ツナグラ

10

若山 泰親 氏(ブレイクポイント株式会社 代表取締役)



藤森 義明 氏(CVC キャピタルパートナーズ 最高顧問)

企業がMBAに求める事

- リーダーシップ教育
リーダーとしての認識、重要な価値観、ロールモデル
- ベスト・プラクティスの提供
- 考える力、プレゼンの力→伝える力
- 変革を嫌わない。変革のプロセス
- 将来に欠かせない知識→IT/DX

14

<パネルディスカッション>

パネルディスカッションでは、藤村博之氏（法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会委員長）をコーディネーターに迎え、登壇者4名の方々と以下の3つのテーマで意見交換をしました。

- ・ 社会の問題を見つけるにあたってMBAでの学びがどのように生かされたか
- ・ 問題を解決する（イノベーションを起こす）力をMBAでどのように身に付けてきたか
- ・ アイディアを実行する力をMBAで身に付けることはできるか



<閉会挨拶>

横山 研治 氏(大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員副委員長、
名古屋商科大学大学院ビジネス研究科長補佐)

横山研治氏からは、各パネリストの発表から見えた実務経験に基づく実践的な学び・ネットワーク形成を与える場としてのビジネススクールの役割に加え、COVID-19 を機にオンライン化・ボーダレス化が進んでいる昨今、国際的に通用する・諸外国からも選ばれるビジネススクールとなるために、グローバルスタンダードを知り、各ビジネススクールが強みを発信していくことの重要性が語られました。



3) 感想

今回のワークショップでは、日本のビジネススクールが「いま企業がMBAに求めることは何か」を理解するとともに、「今後どのようなMBA教育を展開していくべきか」を考える機会となるよう企画し、最先端のビジネスにおいてあらゆる社会の変化を直接感じ取り、変化から新たなビジネスを展開しているMBAホルダーの実務家の方々を登壇者としてお招きしました。

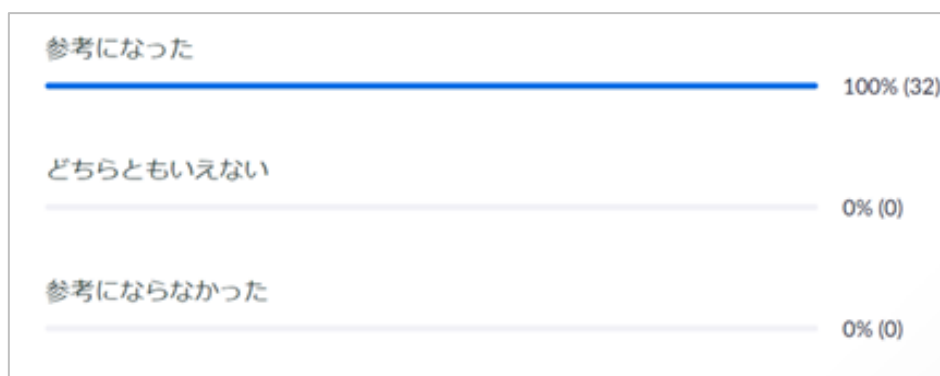
各登壇者からの発表やパネルディスカッションからは、ビジネススクールが学生個人の主体性や実行力だけではなく、多様なバックグラウンドや専門性を持つ学生同士が議論することを通じて目的の達成に向けたマインドやコミュニケーション能力を涵養する場としても重要な役割を担っていることを改めて感じることができました。また、教育の場であると同時に、こうしたマインドの醸成、異業種のネットワークの構築に寄与する場として機能することは、MBAの特質であると改めて実感しました。

さらに、パネルディスカッションの最後には、コーディネーター・登壇者から、より幅広いトレンドに対応できる新たな人材の育成を今後のビジネススクールは担うべきであるとの提言がなされたこと、閉会挨拶においても国際通用性を意識した取組みが必要であるとの示唆がありました。これを受けて、本協会においても、認証評価や今回のワークショップのような機会を通じて、引き続き国内のビジネススクールの発展に向けた支援を行っていききたいと思います。

(大学基準協会 事務局)

本ワークショップへの感想等を参加者にアンケートさせていただきました。この結果を踏まえ、今後ともビジネススクールの質向上を支援するイベントの企画・運営に努めてまいります。皆様のご理解とご協力の程お願い申し上げます。

Q:第13回JUAAビジネス・スクールワークショップ「いま、企業がMBAに求めること」は参考になりましたか?



Q:今後ワークショップで扱ってほしいテーマを教えてください。

